

2号艇の差しは3号艇のスタートがカギ

●横軸：2号艇と3号艇のスタートタイム差（表の左側に行くほど2号艇が早い）

●縦軸：2号艇と1号艇のスタートタイム差（表の下側に行くほど2号艇が早い）

	0.14~0.16	0.12~0.14	0.1~0.12	0.08~0.1	0.06~0.08	0.04~0.06	0.02~0.04	0~0.02	0~-0.02	-0.02~-0.04	-0.04~-0.06	-0.06~-0.08	-0.08~-0.1	-0.1~-0.12	-0.12~-0.14	-0.14~-0.16
0.12~0.14								9.5%		6.3%	7.0%					
0.1~0.12								6.9%	5.3%	4.1%	3.1%	6.1%				
0.08~0.1					10.9%		7.8%	5.5%	6.8%	5.5%	4.7%	2.8%	2.7%			
0.06~0.08					6.5%	8.3%	6.8%	6.9%	5.5%	5.3%	4.8%	4.7%	3.7%			
0.04~0.06				7.7%	10.8%	7.8%	8.6%	7.7%	7.6%	6.8%	5.8%	6.3%	3.3%			
0.02~0.04	15.3%	13.7%	11.2%	10.1%	11.0%	9.9%	9.6%	9.3%	7.3%	7.2%	6.6%	6.1%	4.1%			
0~0.02		10.7%	8.2%	9.6%	11.3%	11.7%	12.2%	9.8%	9.1%	8.3%	6.9%	6.5%	3.5%			
0~-0.02		11.4%	16.3%	16.2%	13.5%	12.7%	12.8%	11.6%	10.4%	9.2%	8.6%	7.8%				
-0.02~-0.04	14.5%	15.6%	9.3%	15.8%	15.3%	14.0%	14.6%	12.5%	10.4%	10.5%	9.2%	4.6%				
-0.04~-0.06	15.5%	12.1%	16.0%	16.9%	15.7%	15.0%	14.1%	14.5%	11.4%	10.7%	8.7%	8.4%				
-0.06~-0.08			16.9%	13.9%	17.4%	16.5%	15.0%	11.3%	9.8%	11.6%	8.1%					
-0.08~-0.1					9.0%	8.5%	12.0%	12.0%	9.2%	9.6%						
-0.1~-0.12							6.7%	4.3%	6.5%	7.2%						

まずは2号艇の差し条件を考える

出目固定システムの実践として、まず最初に注目したのが「2-1-1-3」だ。出現頻度は2・26%。一見すると低く感じるかもしれないが、例えば1-3-6のような出目よりも高い数字であり、なおかつ2号艇の勝利時に最も多く出現する出目でもある。出目固定戦略の出発点としては、十分に検討に値すると思った。

今回の2-1-1-3を狙うにあたって最も重要なのは、「2-1」が成立する展開に絞ってレースを選ぶこと。つまり、2号艇が1号艇を差しして先頭に立つケースが基本となる。まくりになつてしまつと出目は崩れやすく、たとえば2号艇が握つて攻めた場合は2-3-4や2-4-1といった出目になりがちで、2-1-1-3の筋からは外れてしまう。狙うべきは、差しに構えた2号艇が冷静に内を突き、きれいに1号艇を差し切るような展開だ。

その条件を明らかにするため、様々な出目の決定要素から今回は研究の初期段階として2号艇が差しして勝利したレースをピックアップし、スタートタイミングを1号艇および3号艇と比較しながら観察を行った。どのようなスリット体系の際に差しが決まりやすくなるのか考えていければと思う。

3号艇のスタートが大事

上表では、2号艇が差しして勝つたレースにおけるスタートタイムの関係性を整理している。縦軸に2号艇と1号艇のスタートタイム差、横軸に2号艇と3号艇とのスタートタイム差を取り、スタートの並びが2号艇の差しにどれほど影響を与えているのかを四象限で可視化した。各マスに示している数値は、そのスタート差において2号艇が勝利した確率を示しており、いずれも実際のレース結果から取得した本番のスタートタイムを用いている。

今回の研究で最も特筆すべきは表の右側、つまり3号艇にスリットで覗かれるパターンは差しが成立しにくいという点だ。右下、つまり2号艇が1号艇よりもスタートで出ていても、3号艇に先行されている形なら差し率は下がっていることがわかる。実際、2号艇よりも0・1秒以上スタートが速かつた3号艇がいたケースでは、過去3年間で2号艇が差しして勝つた例はほとんどなかった。

このように、差しによる2-1-1-3が成立するスタート条件には一定の傾向があることが見てきた。次のステップとしては、スタート差と2-1-1-3の成立率をさらに関連付けて分析を進めていくつもりだ。